相馬訪問報告

2011 年 4 月 27 日（水）、28 日（木）

相馬市に向かう途中、福島市内にて。満開の桜。

東京大学経済学部松井彰彦ゼミ
文責：4 年　奥山　陽子

行程

4 月 27 日（水）　新幹線で福島駅へ

福島市から伊達市を通って相馬市へ

相馬市中村の相馬市役所・立谷市長を訪問

福島県立相馬高校にて義援金を渡す、東京研修時の実験結果説明、サッカー

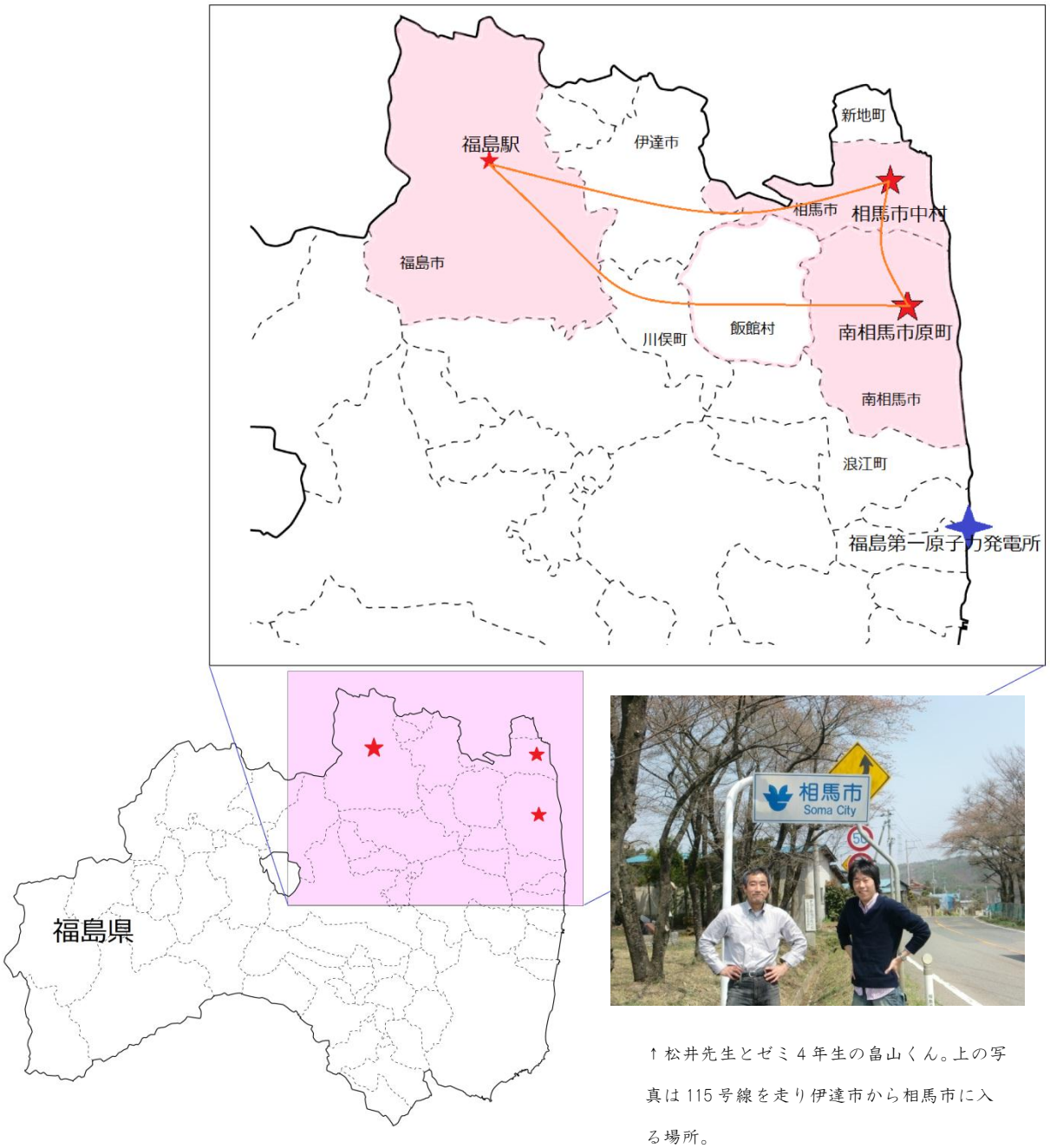
原釜・尾浜地区（沿岸部）へ

4 月 28 日（木）　**南相馬市原町へ**

3 避難所にルームランナー計 6 台を届ける

南相馬市立総合病院を訪問

飯舘村、川俣町を通って福島市へ



↑松井先生とゼミ 4 年生の畠山くん。上の写真は 115 号線を走り伊達市から相馬市に入る場所。

4 月 27 日（水）

【相馬市役所・立谷市長を訪問】

相馬に到着後、まず市庁舎に向かいました。立谷秀清市長は医師でもあり、市長-東大医科研の上昌広先生-松井先生というつながりで、ご多忙ななか面会が実現。震災直後に作成された組織図や、災害対策本部も見せていただきました。「地震発生直後は、目の前のことに対処していればよかった。今の方がもっと大変…先が見えないので…」というのが印象的で、「教育にも力を入れたい（下記 URL のコラムも参照）」との言葉に松井先生も頷いていらっしゃいました。

＊・＊

◇Column◇　相馬市長メールマガジン 2011/04/24 号 No.251　より[http://archive.mag2.com/0000096393/index.html]

＊・＊

【福島県立相馬高校訪問】

さて、市庁舎から徒歩で 5 分ほど、いよいよ相馬高校訪問です。

相馬高校は、相馬市の中心部・中村に位置し 100 年以上の歴史をもつ県立高校です。2003 年に共学化され、2004 年より文科省のスーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）に指定されています（関連事項を p.6 のコラムに）。

すぐ隣には、相馬中村城（別称：馬陵城）跡があります。

相馬高校ホームページ：http://www.soma-h.fks.ed.jp/

↑相馬といえば相馬野馬追。

↑体育館。「屋根を見てください！」と言われて見上げてみると…あっ…

【義援金を相馬高校生へ】

この相馬訪問で一番重要なイベント、それは松井先生が義援金を届けることでした。

今回の義援金は、呼びかけを先生ご自身の twitter 上のみに限り、大学への現金書留あるいは先生の研究室への持参という形で募られたものですが、その金額は 1,244,800 円にのぼります。この日、東京から遥々運ばれてきた小切手が、在校生代表に手渡されました。後ほど自宅が流失した相馬高校生に配分されるそうです。

義援金配布対象の高校生の前で、先生はご自身の著書『高校生からのゲーム理論』が、2 年前の相馬高校生との交流から生まれたことなどに触れ（p6. コラム参照)、「人と人とのつながり、相手を思うことの大切さ」を込めたメッセージを送られました。

↑義援金 1,244,800 円の小切手を松井先生から代表者へ。

↓校歌を斉唱してくれました。歌い方の迫力といったら…！ちなみに入学直後には厳しい「校歌練」というのもあるのだとか。高校生のパワーはすごい。

現在校長代理も務めておられる佐藤信常教頭先生↓

↗数学科の松村茂郎先生（写真右側)。松村先生が松井先生（お名前似ていらっしゃいますね…）にメールを送られたのが、交流のきっかけだったとか…。

【続・東大研修―取引実験の結果解説―】

続いて、東大研修参加者に集まってもらい、取引実験の結果解説を行いました。講師役はゼミ生（で相馬高校生に人気だった）畠山君。需要と供給、価格がきまる仕組みが説明され、実験結果が概ね理論と一致していたことも披露されました。

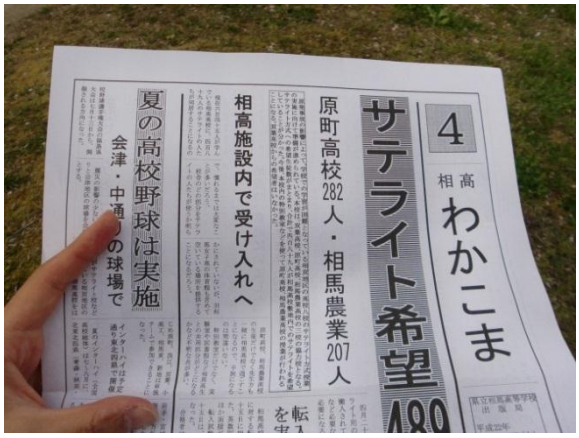
塾講師歴 3 年の畠山君、「留保価格」という用語を使わずに説明するなどの工夫が。最後に松井先生による補足もあり、経済学の面白さが少しは伝わったでしょうか!?!?

←価格決定の仕組みをグラフで解説。

↑真剣に聞いてくれました。

↑現役プレーヤーの松井先生には高校生もびっくり!?きれいな桜をバックに熱戦が繰り広げられました。ちなみにここは、相馬中村城跡にできた公園。

↓サッカー観戦しながら、学校新聞も見せてもらいました。相馬高校は今後周辺高校の生徒489人を受け入れるのだそうで、今その準備が進められています。



【サッカー交流戦】

東大経済学部でもサッカープレーヤーとして有名な松井先生。それを知ってか知らずか、相馬高校の男性陣は東大研修の時に、先生と「相馬でサッカーをする！」ことを約束したそうで…。高校の隣の公園にて交流戦が実現しました。

…交流戦と言っても、東大松井ゼミからの参加は松井先生だけです…。同行したゼミ生２人は言わずもがなの戦力外。先生が高校生以上に走り回ってらっしゃるのを横目に、写真を撮ったり観戦にきた女性陣とおしゃべりしたりしていました。

↑交流戦お疲れさまでした。約束果たせてよかったですね。松井先生も嬉しそう。

＊・＊

◇Column◇ 松井先生と相馬高校

松井先生と相馬高校がなぜ交流！？と疑問に思われた方はぜひぜひ下の新書をご覧ください。
ここでは、少しだけ紹介させていただきます。

「ぼくのところへ福島県立相馬高校のみなさんが訪ねてきてくれたのは、2009 年の秋のことだった。かれらはゲーム理論を用いて社会・経済を考える、という高校生にとってはやや難しい課題にチャレンジし、その成果を見せに来てくれたのだ。

発表は聞きごたえのあるものだった。やる気のある高校生のみなさんならば、適切な指導があればかなりのことができる。そう実感した。それに加え、相馬高校の松村茂郎先生が楽しんで指導をしている姿も素晴らしかった。発表後のコメントの時間には、かれのわくわく感が高校生のみなさんやぼくに伝染（うつ）ったかのようだった。高校生のみなさんがわくわくできるような本を作りたいと思った。・・・」

（松井彰彦『高校生からのゲーム理論』ちくまプリマ―新書 「あとがき」より）

…しかしなぜ、高校生がゲーム理論!?!?と知りたがり屋の私は、せっかくなので先生方に伺ってみました…

奥山「あの…なぜ松村先生はゲーム理論を選ばれたのですか？」

松村先生「2 年前、スーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）の一環で文系の生徒用にと『経済班』を作ったのです。それで、東大経済学部の教員一覧を見ていて、ゲーム理論ってなんかサイエンスっぽかった（笑）ので、それまでゲーム理論は知らなかったのですが、松井先生にメールしました。運命の出会いですね（笑）」。

奥山「な、なるほど一笑。で…松井先生は、松村先生のメールに即答されたそうですが…」

松井先生「うん…おもしろそうだったからね！」

奥山「な、なるほど一笑。」

きっかけがなんだか不思議ですが、今こうやって繋がっていることは素敵だと思います。相馬高校は今年の冬にも東京研修をやるそうなので、松井ゼミや東大経済学部、東大全体と今後も交流が続くことを願っています。

＊・＊

【被災地区訪問】

相馬高校を出た後、私たちは宿のある沿岸部に向かいました。宿は高台の上にあり被災を免れたものの、眼下は津波の被災地。相馬高校社会科で地元の研究もなさっている小野田先生のご案内で、少し周辺（原釜・尾浜地区）を回らせていただきました（地図参照、以下写真）。

原釜・尾浜の北方には「相馬港」が南側に「松川浦」があります。町のあちこちに、津波で運ばれてきた漁船が横たわっており、その威力を物語っています。先生方によるとやはり津波は 10m を超えていたのではないかと…。

右写真にある松川浦周辺は「ヒヌマイトトンボ」という珍しいトンボの生息北限なのだそうです。（このトンボは、淡水と海水が混じりあう場所に住み、草の茂みを低空飛行するそうです）。が、震災でこの自然環境が壊れてしまったため、ヒヌマイトトンボも姿を消してしまったのでは、と心配されています。

↑松川浦。以前は淡水と海水が混じりあう場所だったのが、今回の地震津波で海になってしまったという。

他方、夕方に耳を澄ますとカエルがないていました。カエルは…いったいどこに身を寄せているのでしょうか…。

↓津波は建物を骨だけにする…

↓あちこちに漁船が。

↑1 階がなくなっている家、全壊している家…。ある高校生は「さいごは竹にしがみついていた」。津波の恐ろしさは想像を絶します。

↑火力発電所。この３階に駆け上って一命をとりとめた方々もいるそう。来年には操業再開とのこと。

↑橋は残ったものの、橋のふもとが流されてしまって使えなくなってしまっています。

↑ガソリンスタンドがあったのでしょう。

↑松川浦造船の建物。中には、製造中だったと思われる船も。

↑「これでもだんだん片付いてきたのです」と小野田先生。重機が入っているのがわかります。

【震災被害に関すること（補足）】

松村先生や小野田先生からは、地図上でもいろいろなお話をしてくださり、胸が痛みながらもこれが現実なのだという気持ちで伺っていました。

沿岸部の磯部地区（右地図参照）は、市内でも津波被害の一番大きかったところ。住民を避難させるために消防団員９名もここで殉職されているそうです。（※相馬市内で亡くなった方のうち、地震による死者はたった１名、あとの方は全員津波被害だそうです）。

また、沿岸部をさらに下った南右田という地区のあたりでは、土地の低い場所が「避難場所」に指定されていたために、避難した人が津波にのまれてしまったといいます。

東北地方では３月９日にも地震があり、これを受けて３月10日に避難訓練を実施した地域もありました。にもかかわらず犠牲者がでるほど、今回の地震が想定をはるかに超える大きいものだったのです。

また福島県は原発というもうひとつの問題を抱えています。ご自身が浪江町にお住まいで、原発事故を受けて住まいを移すことを余儀なくされた松村先生は「20Km 圏内の人は、もう住まいを移しているが、今それ以上につらいのは 20Km～30Km 圏在住の人なのでないか。このままの生活を続けてよいのかどうか、いわば『生殺し』の状態だから」とおっしゃいました。厳しい表現ですが、それだけに現実を物語っているようで、私の印象に残っています。

さらに、「避難所生活では『やることがない』というのが一番しんどい」とも。相馬市では、学校給食の調理場を朝・夕も稼働させ、避難してきた方の力を使って、避難所生活者のための食事作りを行うなど、工夫をしているそう。「このアイディアはよいと思う。支援物資も、もうおにぎりなどでなく、材料が良いと思う。」との言葉に、避難所生活も新たな段階に入っているのだと気が付かされました。

ガイガー・カウンター。これを車中にいれて走るとどこの放射線量が高いかわかる。相馬市は、福島市より低い。（風向きの関係といわれています）→

←浪江町で作られていた貴重な日本酒（同町の馬場酒造本店が酒造した純米酒）。松村先生がくださったもの。ご覧になりたい（飲みたい…？）方は松井先生の研究室へどうぞ。

4 月 28 日（木）

【南相馬市の３避難所へ】

この日は、朝早くに相馬市とお別れし、隣市の南相馬市立石神第一小学校、原町第一小学校、原町第二中学校へ、ルームランナーを各２台ずつ届けました。運動機会の不足などからくるエコノミークラス症候群を予防するのに役立ててもらうためです。

←原町第二中学校の前にて。

→受け渡し式のようなものを、ということで、避難所の方も一緒に写ってくださった。（原町第一小学校）

このルームランナーお届けの経緯について、松井先生のツイートを引用させていただきます↓

「今朝は、南相馬の避難所に代理でルームランナーを届けました。南相馬原町高 OG の図斎浩子様等からの支援金を使用させていただきました。南相馬の病院で奮戦しておられる及川先生の要請を[医科研の]上先生がつなぎ、相馬高校の高村先生が運んでくださいました。驚きの連携でした。感銘。」

【南相馬市立総合病院へ】

さて、最後の訪問地は、上記の松井先生のツイートに出てきた「南相馬の病院」＝南相馬市立総合病院です。医科研の上先生もいらっしゃっており、副院長の及川先生が、放射線量測定器が品薄で手に入りにくくなっていること、内部被ばくの量を測るための機械を海外に発注したこと、などをご説明くださいました。

→[写真左から]都立駒込病院の高橋幸江先生、相馬高校の高村康広先生、東大医科研の上先生、松井先生、南相馬市立総合病院長の金澤幸夫先生、副院長の及川友好先生。

↑及川先生から放射線測定に関する説明が。

↑病院外観

【帰途―南相馬市から福島市へ―】

原町からは、飯舘村・川俣町を通って福島市へ戻りました。飯舘村は村の大半が福島第一原発の半径30km圏外にありますが、全村が「計画的避難区域」に指定されています。（※川俣町・南相馬市も一部が「計画的避難区域」となっています）。

地震から一か月あまりがたち、原発事故がなければ‘Back to Normal’となるところと思いますが、この地域では目に見えない不安の種が尽きません。「『生殺し』の状態です…」という言葉を思い出しながら帰りました。

↑飯舘村はのどかな農村でした。

◇お世話になった方々のご紹介と所感◇

経済学部経済学科松井ゼミ４年　　奥山陽子

３月 11 日午後、私を含め多くの同期が就職活動のために都内に出ていた。あの日の地震を境に、東北の状況が、関東圏の生活が、そして日本全体がこのように変わるとはだれが想像しただろう。

４月、本来ならば新学期を迎え新三年生のゼミ・リクルーティングで忙しくするはずだが、東大経済学部は始業を一か月遅らせるとのこと。そこに舞い降りてきた「相馬高校との交流」。４月某日、自主ゼミのために集まったゼミ生を前に、松井先生が「来週福島県立相馬高校の生徒さんが来てゲーム実験などをする」と宣言。そこで、ゼミ生は２年前から先生が同校と交流を持っていたことを知る。

こうして４月 14 日から 16 日にかけて開かれた「東京研修」は、松井先生はじめ理学部の須藤靖先生のレクチャー、亜細亜大の加藤一彦先生・高崎経済大の山森哲雄先生による経済実験、代ゼミ現代文講師で東大卒業生の藤井健志先生による講話に加えて、松井ゼミ生総勢 17 名が実験アシスタントとキャンパスツアー企画という形で参加させていただいた。研修の一部は日本テレビおよび朝日新聞でも紹介された。新学期前の相馬高校生にも概ね好評だったと伺っている。

今回の相馬訪問は、松井先生が義援金を届け、サッカーをするという目的のほかに、東京研修の続編でもあり、就職活動のないゼミ生２人が同行させていただいたものである。

この１か月弱、私自身貴重な経験をさせていただいたと思う。地震のあと、この非常事態に経済学か…と思ったり、余震が来るたびに次は東南海か！？と怯えたり、薄暗くなった東京近郊で自分はあまり役立たないなあと、ため息をついたりの日々だったが、相馬高校生との交流を通じて、震災のまた別の側面を見た。

高校生といろいろな話をした。部活のこと、将来の夢、アイドルの話、恋愛観（苦笑）…私も一応４年前まで高校生だったのだが…なんというか大きなエネルギー（と純粋さ!?!?）を感じて楽しかった。しかし同時に、言葉の端々から今回の震災の大きさを感じてもいた。一緒に書籍部に行ったとき、将来は薬剤師になりたい、とか洋書が好き、とか弾んだ声で本を見ていた彼女たちが、ふと原発関連の本の前で足を止めて「原発のことをもっと知らなきゃと思うんです」「もし、避難区域が広がったら…私たちは全員転校してばらばらになってしまうのかなと心配で」とロ々に言った。私は、なんて答えたらよいのだろうと逡巡してしまった。

相馬では、地震直後の自宅付近の様子を教えてくれたり、写メを見せてくれたりした子もいた。チョッパーというキャラクターのキーホルダーコレクションの写メを見せながら「これ、流される前に写メっといてほんとよかったー」と言われた時、胸が痛かった。

こういうことすべてを背負って、「復興」に取り組まなければならないのだから、先は長い。原発や電力の問題もある。震災直後、日本中、いえ世界中から義援金・支援物資が集まった。その瞬発力は本当に必要だった（今も必要としている部分もある）。それと同時に今後必要なのは忍耐力と継続性だと痛感する。相馬高校との交流も今回で終わらず、今後も続けられたらよいなと思う。「つながり」の大切さを感じている。

＊

相馬高校数学科でゲーム理論をはじめるきっかけを作られた松村先生、今回東京研修に当たって東奔西走してくださった高村先生、ご自身も被災されながら新任の初仕事として東京に来てくださった菱川先生、相馬市原釜地区にて被災状況をご説明くださった小野田先生に感謝いたします。相馬での、先生方の働き、お言葉にもたくさん学ばせていただきました。また、相馬訪問の際、宿泊場所に困った私を（宿泊部屋が一室で、私だけ女子学生だったので…。）快く泊めてくださった、高村先生のご両親にもお礼申し上げます。

被災地の一日も早い復興を願い、また犠牲になられた方のご冥福をお祈りしながら、私も新学期に臨もうと思います。

※なお本報告書は奥山個人が作成したもので、内容に関して一切の責任は私にあります。

2011 年 5 月 1 日